

# 記録様式作成にあたっての参考資料

(シェッド、大型カルバート等定期点検版)

平成31年2月

国土交通省 道路局 国道・技術課

1. 本資料の位置付け .....	1
2. 様式A .....	2
3. 様式B .....	7
4. 様式C .....	13
5. 様式D .....	24

## 本資料の位置づけ

定期点検の結果は、維持・修繕等の計画を立案する上で参考とする基礎的な情報であり適切な方法で記録し蓄積しておく必要があります。記録の様式、内容や項目について定めはなく、道路管理者は記録の利活用目的を具体的に想定するなどし、記録項目の選定や方法を検討します。

本参考資料は、各道路管理者が、記録方法や内容を工夫したり、様式を工夫したい時の参考になるように、考えられる利活用目的をできるだけ幅広く想定したときに、それを網羅した記録様式の種類や構成の例を作ったものです。それぞれの様式例には、実際に使うとしたときに想定される留意点も記載しました。

各道路管理者が既に定めている記録の方法や様式を、本参考資料の様式に統一するものではありません。また、この資料を参考に様式を検討する場合にも、一連の様式例を全て使う必要もなく、実際の道路管理者の利活用目的に応じて、必要な様式を取捨選択し組み合わせるなども自由に検討できます。各様式内の欄の構成や項目や使い方・目的も自由に検討できます。

様式1(1)

定期点検記録様式 (1) ロックシールド・スノーシールド 施設名・所在地・管理者名等	施設ID 緯度 経度	起点側	35.159388 139.819139
施設名	路線名	所在地	
〇〇ロックシールド (フリガナ) マルマルロックシールド	国道〇号	〇〇県△△市□□町	
管理者名	定期点検実施年月日	代替路の有無	自専道or一般道 一般道
〇〇県△△土木事務所	2019.〇.〇	有	緊急輸送道路 二次
			占用物件(名称) 水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		定期点検者	(株)〇〇コンサルタント	定期点検責任者	△△ □□
定期点検時に記録					
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号, 位置等が分かるよう 写真1	応急措置後の 判定区分	応急措置及び判定 実施年月日
上部構造	III	ひびわれ	写真1	II	2019.〇.〇
頂版	I				
主梁	I				
横梁	I				
壁・柱	I				
受台	I				
下部構造	I				
底版・基礎	I				
支承部	III	ひびわれ, 剥離	写真2	I	2019.〇.〇
その他	I				

施設毎の健全性の診断(対策区分 I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分) (所見等)	
III	(適切に記載する)

全景写真(起点側, 終点側を記載すること)	
建設年次	延長 幅員
不明	96 8.5
構造形式	
PC製逆L式	



※建設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

様式2(1)

状況写真(変状状況)  
 ○判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。  
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主梁) 【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真1</p> 	<p>下部構造( ) 【判定区分: 】</p>
<p>支承部 【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真2</p> 	<p>その他 【判定区分: 】</p>

様式1(2)

定期点検記録様式 (2) 大型カルバート 施設名・所在地・管理者名等	施設ID	緯度	経度
施設名	所在地	起点側	終点側
〇〇カルバート (フリガナ) マルマルカルバート	〇〇県△△市□□町		
管理者名	国道〇号	自専道 or 一般道	緊急輸送道路
〇〇県△△土木事務所	定期点検実施年月日	代替路の有無	占用物件(名称)
	2019.〇.〇	有	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)定期点検者(株)〇〇コンサルタント		定期点検責任者 △△ □□	
定期点検時に記録			
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)
カルバート本体	III	ひびわれ	写真1
継手	III	継手の機能障害	写真2
ウイング	I		
その他	I		
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)定期点検者(株)〇〇コンサルタント		定期点検責任者 △△ □□	
応急措置後に記録			
部材名	判定区分	応急措置後の判定区分	応急措置内容及び判定実施年月日
カルバート本体	III	II	叩き落とし 2019.〇.〇
継手	III	I	2019.〇.〇
ウイング	I		
その他	I		

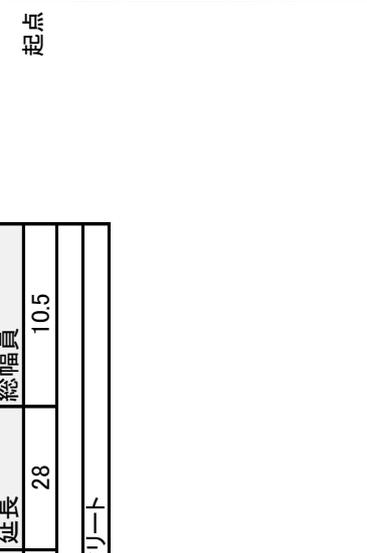
施設毎の健全性の診断(対策区分 I~IV)	
定期点検時に記録	(所見等)
III	(適切に記載する)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)	
建設年次	延長
2000	28
構造形式	総幅員
場所打ちコンクリート	10.5

起点



終点



※建設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

様式2(2)

別紙2  
 状況写真(変状状況)  
 ○判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。  
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>写真1</p> 	<p>カルバート本体(側壁) 【判定区分: Ⅲ】</p>
<p>写真2</p> 	<p>継手(遊間部) 【判定区分: Ⅲ】</p>
<p>ウイング( ) 【判定区分: 】</p>	<p>その他 【判定区分: 】</p>

## (1)解説

本様式は定期点検における健全性の診断結果や措置の内容に関する最小限の情報を記録する場合を想定しています。

そのために、本様式を使用する際の注意点の例を以下に示します。

### (例)

- ・ シェッド、大型カルバート等の施設全体の健全性の診断に直接関係する不具合がわかるように、施設の状態を代表する写真を添付することが考えられます。
- ・ 緯度経度情報を入れておき、これを I.D.番号に変換することで、I.D.番号がわかれば、電子地図などで位置が確認できるようになります。また、当該施設の関連図書については同じ施設 ID を含むように電子化することで、図書の検索を容易にするなど工夫につながることを期待されます。この I.D.番号を様式では「施設 ID」と称しています。
- ・ 管理者毎に施設番号を決めているときには、I.D.番号とは別に、施設番号の欄を作ることを想定しています。この施設番号を様式では「施設コード」と称しています。
- ・ 施設毎の健全性の診断の欄には、施設の健全性について変状の状態、措置の目的や切迫性についての定期点検を行った者の所見を記録したり、健全性の診断の区分を記録したりすることを想定しています。
- ・ ここでいう措置は、応急措置です。応急措置を行った箇所や内容、行う前の状態や健全性の区分も記録しておくことで、次回の定期点検やその他維持管理の参考になります。この様式例では、監視や対策などの措置の記録は別途行うことを想定しています。なお、法令のとおり、措置を講じたとき道路管理者はその内容を記録し、当該施設が利用されている期間中はこれを保存する必要があります。ただし、記録の内容や項目、様式等については法令上定めがなく、定期点検の記録と同様に各道路管理者が定めるものです。

総括記録

診断記録様式(その1)(1)

【様式】B-1(1)

緯度 経度	35.159388 139.819139	緯度 経度	35.180123 139.819301	施設ID	
起点側		終点側			

施設名・所在地・管理者名等(ロックシエッド・スノーシエッド・スノーシエルター)	フリガナ ○○ロックシエッド ○○ロックシエッド				
路線名	県道○○	管理番号	○○県	施設コード	○○○○
自	○○県○○市○○	距離	23.7 km + 00m	調査更新年月日	○○年○○月○○日
至	○○県○○市○○	距離	23.7 km + 96m	現地診断年月日	○○年○○月○○日
構造形式	PC製造工式	延長	○○m	幅員	○○m
				建設年度	○○○○年度

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)  
定期点検時に記録

部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等が分かるように記載)
上部構造	I	ひびわれ	写真1、部材番号○
下部構造	I		
支承部	III		
その他	I	照明取付金具の腐食	写真2、部材番号○

施設毎の健全性の診断(判定区分I~IV)

(判定区分)(所見等)	定期点検時に記録
III (適切に記載する)	

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

<全景>



起点側

終点側

<近景>



起点側

終点側

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入する。

総括記録

診断記録様式(その1)(2)

緯度 35.159388	緯度 35.160123	緯度 35.160123	緯度 35.160123
経度 139.819139	経度 139.819301	経度 139.819301	経度 139.819301
起点側	終点側	施設コード	施設ID

施設名・所在地・管理者名等(大型カルバート)

フリガナ 施設名	〇〇カルバート	路線名	県道〇〇	管理者	〇〇県	施設コード	〇〇〇〇
所在地	〇〇市〇〇	距離標	23.7 km + 00m	自	〇〇振興局	調査更新年月日	〇〇年〇〇月〇〇日
構造形式	〇〇市〇〇	延長	23.7 km + 96m	至	〇〇土木事務所	現地診断年月日	〇〇年〇〇月〇〇日
	場所打ちコンクリート	延長	〇〇m	幅員	〇〇〇〇年度	診断者	〇〇会社 〇〇〇〇

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等が分かるように記載)
カルバート 本体	I	頂版	
	III	側壁(隔壁)	写真1、部材番号〇
	I	底版	
	I	フーチング	
継手	I	基礎	
	I	目地・遊間部	
	I	接合・連結部	
その他	III	ウイング	
	I	路上(内空)	
	I	路上(上部)	
	I	その他	写真2、部材番号〇

施設毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

定期点検時に記録	
(判定区分) (所見等)	
III	(適切に記載する)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

<全景>

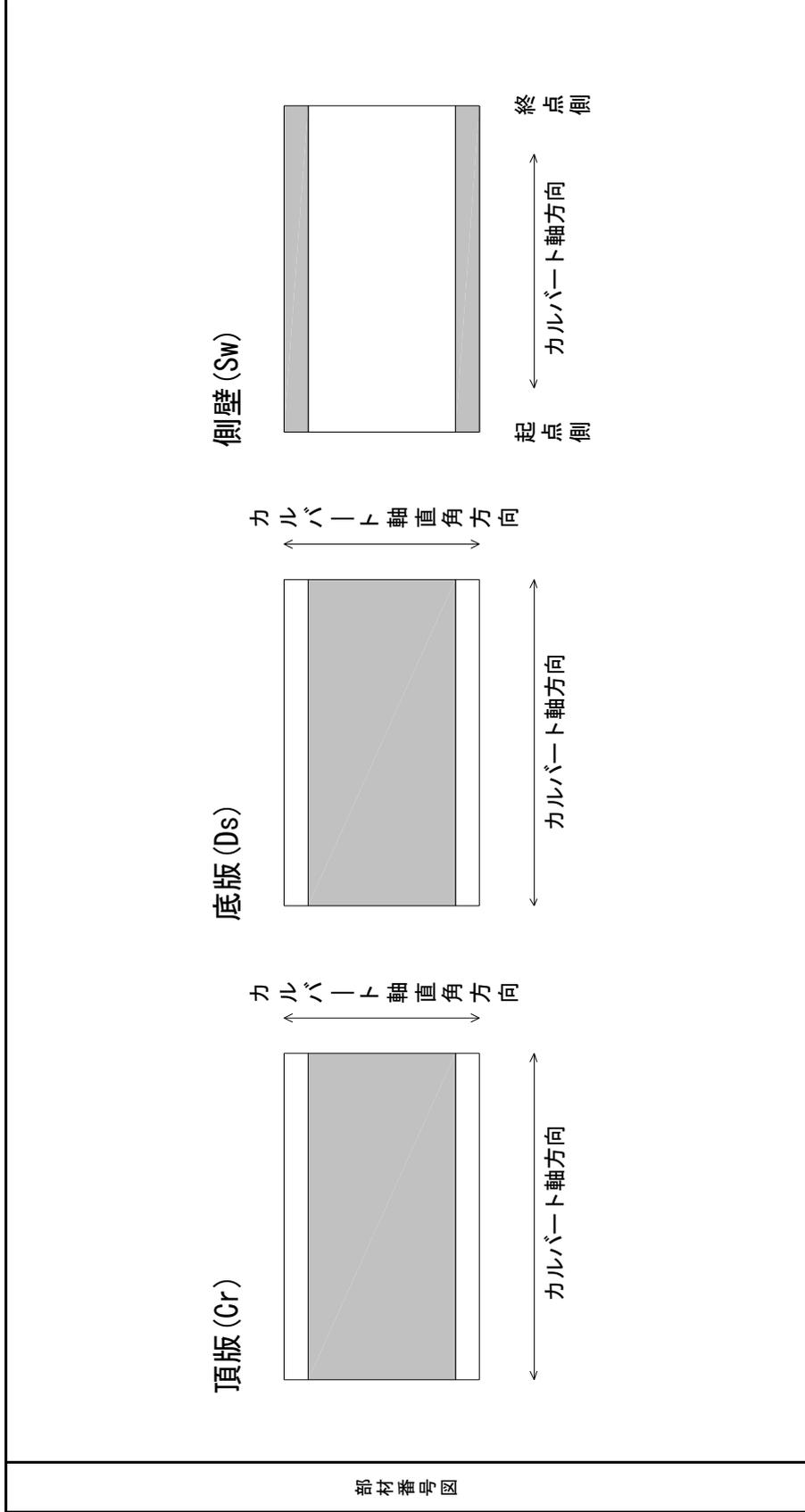
<p>起点側</p>	<p>終点側</p>
<p>終点側</p>	<p>起点側</p>

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

診断記録様式(その2)

起点側	緯度 35.159388	終点側	緯度 35.160123	施設ID
	経度 139.819139		経度 139.819301	

フリガナ 施設名	施設名 ○○カルバート ○○カルバート	路線名	県道○○	管理者	○○県	施設コード	○○○○
-------------	---------------------------	-----	------	-----	-----	-------	------



診断記録様式(その3)

緯度	35.159388	緯度	35.160123
経度	139.819139	経度	139.819301

起点側	終点側	緯度	経度	施設ID
緯度	35.159388	緯度	35.160123	施設ID
経度	139.819139	経度	139.819301	

フリガナ 施設名	路線名	管理番号	施設コード
〇〇カルバート 〇〇カルレバート	県道〇〇	〇〇県	〇〇〇〇

変状場所の記録図

<p>ブロック番号〇〇</p> <p>頂版 ⑥ひびわれ-c (中,小) [0.2mm, 0.5mm以上]</p> <p>写真番号1-1</p> <p>水切り</p> <p>ハンチ部</p> <p>ハンチ部</p>	<p>ブロック番号〇〇</p> <p>1060</p> <p>頂版 ⑥ひびわれ-d (大,小) [0.4mm, 0.5mm以上]</p> <p>水切り</p> <p>起点</p> <p>終点</p> <p>⑥ひびわれ-d (大,小) [0.5mm, 0.5mm以上]</p> <p>写真番号1-2</p>
--	--

表 示	目視点検での変状種類
---	施工目録
〇	ひびわれ (0.5mm未満)
〇	ひびわれ (0.5mm以上)
〇	ひびわれ (0.5mm以上) (ハシ等・路肩・縁石部)
〇	剥離・表層剥離 (2.5mm未満)
〇	剥離・表層剥離 (2.5mm以上)
〇	湧水・潤滑石段
〇	湧水 (濡れている部分)・湧水跡
〇	その他

○ 診断根拠とした、主要な変状を記載する。

変状写真及び判定結果

診断記録様式(その4)

起点側	緯度 35.159388	終点側	緯度 35.160123	施設ID
	経度 139.819139		経度 139.819301	

施設名 フリガナ 施設名	所在地 〇〇カルバート 〇〇カルバート	管理名 路線名	管理コード 〇〇県	施設コード 〇〇〇〇
フリガナ	〇〇カルバート	路線名	〇〇県	〇〇〇〇

健全度判定

写真番号	ブロック番号	部材名	頂版	部材番号
1	剥落・鋼材露出			
2	ひびわれ			

写真番号	2	ブロック番号	ひびわれ	部材名	側壁	部材番号
変状の種類						
損傷写真						
所見	(適切に記載する)					
部材単位の健全性の診断	部材単位の健全性の診断					II

○部材単位の判定区分がII、III又はIVの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。  
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。  
 ○診断根拠とした、主要な変状を記載する。

## (1)解説

本様式は様式Aに加え、シェッド、大型カルバート等の施設の健全性の診断において着目した変状について、俯瞰的に把握できるスケッチを残したり、写真とともに種類や寸法・範囲の概略を残すことで、次回の定期点検や以後の調査等に引き継ぐことを想定しています。

本様式を実際に使用するとき想定される注意点の例を以下に示します。

### (例)

- ・ B-1様式はシェッド・シェルター（B-1(1)）と、大型カルバート（B-1(2)）で記載様式を変えています。B-2様式からB-4様式は共通の様式としています。
- ・ B-2様式は、部材単位で状態や健全性の診断の区分を行うことを想定したものです。
- ・ 部材番号を決め、その番号に紐づけて部材の種類や材料、変状の種類や健全性の診断区分を記録すると、定期点検調書を後日活用するときに有用であると考えられます。
- ・ B-3 様式は、必要な記録を目的にかなう方法で残すための欄として想定しています。例ではスケッチを入れていますが、スケッチにこだわる必要はありません。たとえば、既存の写真にコメントを入れて貼り付けておくことなども考えられます。
- ・ B-4様式は、主要な部材種別単位ごとに、施設全体の診断根拠（Ⅰ～Ⅳ）とした証拠となる代表的な変状を例示することを想定しています。たとえば写真は、直接関連する不具合の場所や種類、不具合の程度がわかるものを添付することを想定しています。所見欄は変状の種類や程度、要因、健全性の診断の根拠を記載する欄として想定しています。すべての変状毎に写真を求めるのであれば求める記録の目的や水準に応じて、たとえばD-2様式と組み合わせて使うなどの利用上のバリエーションが考えられます。

ロックシエツド・スノーシエツド・スノーシエルトー

定期点検記録様式(その1) 施設の諸元と総合検査結果

【様式】 C-1 (1)

起点側	緯度 35.159388	経度 139.819139	終点側	緯度 35.160123	経度 139.819301	施設ID
路線名	国道〇〇号(現道)		〇〇地方整備局		施設コード	10
距離標	自 23.7 km + 00m	至 23.7 km + 96m	管轄		調査更新年月日	2020/1/20

フリガナ	〇〇ロックシエツド		〇〇市〇〇		〇〇市〇〇		
所在地	〇〇市〇〇		〇〇市〇〇		〇〇市〇〇		
道路規格	3種1級	設計速度	80 km/h	調査年	2012年	区間番号	不明
交通量	年間12時間		18,000台	緊急輸送道路の指定	有(一次)		
優先確保ルート	無		有	事前通行規制・迂回路	無		
融雪剤等散布区間	無		有	融雪剤等散布区間	無		
施設機能/種別	ロック		シエツド	延長/ブロック数	96.00 m	8 ブロック	
内空	全幅員/車道幅員	8.50 m	7.00 m	断面	有効高/建築限界	4.70 m	
上部	構造	PC製	T形断面	使用材料/形式	逆L式		
下部	山側/谷側	逆L式	直接	構造	山側/谷側	逆L式	
基礎	基礎	砂利	砂	種類/厚さ/面積	0.9 m	768 m <sup>2</sup>	
飛散防止材	種類/厚さ/面積	0.2 m	768 m <sup>2</sup>	種類/厚さ/面積	0.2 m	768 m <sup>2</sup>	
照明	種類/灯数	無	001	海岸からの距離	0 ヵ所		
谷側条件	海岸・消波ブロック有		名称	上下水道 更新年次: 不明			
管理	〇〇〇水道局		管理	〇〇〇水道局			
現地写真	全景(谷側柱などがわかる側面の写真)						

設計条件	最大勾配	1.5 %	横断	200 m	区間長	500 m	災害履歴の有無	無						
設計条件	曲線半径	2003 m	年度	2001年度	最新補修履歴	2007年10月								
設計条件	供用開始	2003年	設計完成年度	2001年	点検履歴	*2010年〇月〇日 総合的な評価								
設計条件	対象荷重	落石対策便覧(H12.6)	道路橋示方書Ⅱ(H8.11)	道路橋示方書Ⅳ(H8.11)	*特記事項及び防災点検結果等は備考欄に記載									
設計条件	積雪荷重	鉛直 0 kN/m <sup>2</sup>	水平 0 kN/m <sup>2</sup>	積雪深 0 m	*2006年〇月〇日									
設計条件	雪崩荷重	鉛直 0 kN/m <sup>2</sup>	水平 0 kN/m <sup>2</sup>	積雪深 0 m	*2007年〇月〇日									
設計条件	地震荷重(水平震度)	0.16	不明	不明	海側梁部のひびわれ箇所補修									
設計条件	テマリ荷重	不明	不明	不明	備考欄									
設計条件	その他荷重	不明	不明	不明	備考欄									
設計条件	設計図書/竣工図の有無	有	設計図書/竣工図の有無	有	備考欄									
設計条件	斜面長さ/形状/勾配	50 m	軟岩	有	備考欄									
設計条件	浮石の状況	無	凹凸中〜大	立木あり	備考欄									
設計条件	斜面地盤状況	一部流出あり	一部流出あり	HDZ35	備考欄									
設計条件	地質地盤の状況	塗装	塗装	HDZ35	備考欄									
設計条件	鋼部材	塗装面積	9.4 m <sup>2</sup>	(全塗装面積)	備考欄									
設計条件	防食	コンクリート強度	主梁 50 N/mm <sup>2</sup>	柱 50 N/mm <sup>2</sup>	備考欄									
設計条件	RC-PC部材	鋼材/PC or PC	主梁 PC鋼より鋼	PC鋼より鋼	備考欄									
設計条件	PC部材	鋼材/PC or PC	主梁 PC鋼より鋼	PC鋼より鋼	備考欄									
設計条件	現地写真	近景(頂版・柱のわかる側面の写真)												
設計条件	位置図													
設計条件	ブロック番号	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> </table>					1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8							
設計条件	起点側						終点側							

判定区分 (総合評価)	III
所見	(適切に記載する)
作成者	〇〇〇〇会社

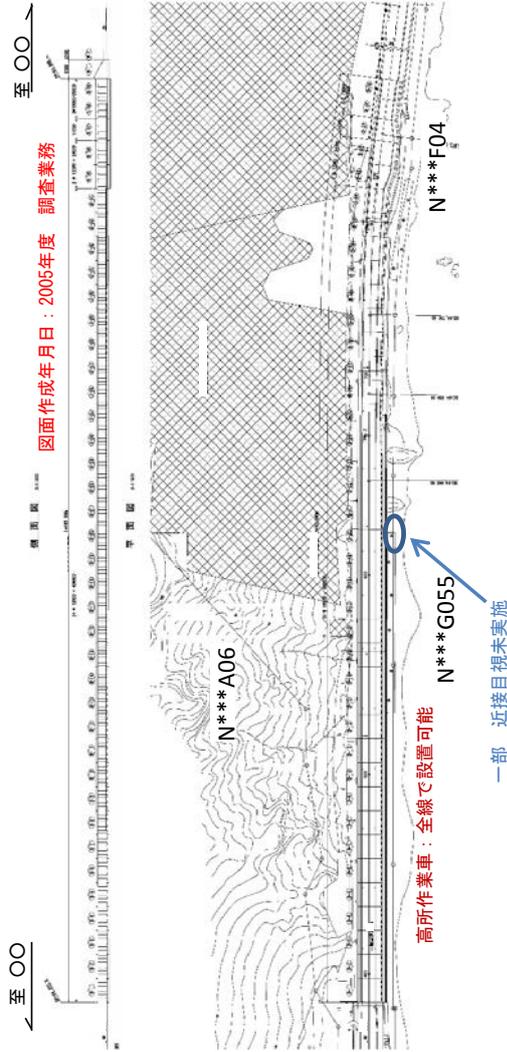
ロックシエッド・スノーシエッド・スノーシエルター

定期点検記録様式(その2) 一般図

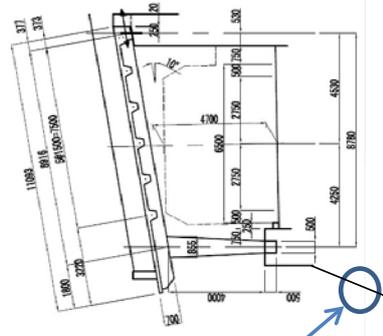
フリガナ 施設名 〇〇ロックシエッド	国道〇〇号(現道)	管轄 〇〇	地方整備局 施設コード:	10
起点側 緯度 35.159388 経度 139.819139	終点側 緯度 35.160123 経度 139.819301	施設ID		

道路台帳番号	図面番号	不明	区間順序番号	不明
設計会社	〇〇コンサルタント(株)			
施工者(上部構造)	〇〇建設(株)/〇〇コンクリート工業			
施工者(下部構造)	〇〇建設(株)			

防災点検実施の有無	
1	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度 2017 要対策
2	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度 2017 N***G055 カルテ
3	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度 2017
4	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度
5	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度



断面図 図面作成年月日: 2006年〇〇ロックシエッド補修工事



①谷側擁壁基礎部への進入路: 100m北に湾岸管理通路入り口  
侵入には、湾岸管理者への連絡が必要  
管理者: 〇〇県〇〇市〇〇町  
②路肩に余裕1台程度なら駐車可

〇一般図には近接目視による診断が行えていない箇所を明記すること。

大型カルバート

定期点検記録様式(その1) 施設の諸元と総合検査結果

フリガナ 施設名 ○○カルバート 所在地 自 ○○県○○市神分 至 ○○県○○市神分		路線名 国道○○号○○バイパス 距離標 自 123.0 km + 45m 至 123.0 km + 73m		管轄 ○○地方整備局 ○○国道事務所 ○○国道出張所		施設コード 100 調査更新年月日 2020/1/20		起点側 緯度 35.159388 経度 139.819139 終点側 緯度 35.160123 経度 139.819301		施設ID					
道路規格 調査年 2010年 交通量 区間番号 40,000台 車線数/大型車混入率 58% 荷重制限 不明 緊急輸送道路の指定 有 優先確保ルートの指定 有 事前通行規制・迂回路 有 融雪剤等散布区間 有		設計条件 上部道路活荷重 B活荷重 上部道路との斜角 80度 地震荷重(水平震度) 0.20 基礎地盤N値(土質条件) N値10(砂質土) 基礎地盤改良状況 セメント改良 地下水位 -3.5m その他荷重 無 設計計算書/竣工図の有無 有		縦断勾配 横断勾配 1.415% 曲線半径 2,000m 供用開始 2003年度 適用基準 道路土工-カルバート工指針(平成11年度版) 上部道路活荷重 B活荷重 上部道路との斜角 80度 地震荷重(水平震度) 0.20 基礎地盤N値(土質条件) N値10(砂質土) 基礎地盤改良状況 セメント改良 地下水位 -3.5m その他荷重 無 設計計算書/竣工図の有無 有		災害履歴の有無 無 最新の補修履歴 有 点検履歴 有 ・2010年○月○日 総合的な評価 I (特記事項は備考欄に記載) ・2012年にひびわれ注入を施工 (特記事項は備考欄に記載)		構造諸元 延長/ブロック数 28m / 2ブロック 内空幅/内空高 6.00m / 5.30m 内空が道路車道幅員/車線数/歩道の有無 6.00m / 2車線/歩道 無 内空が水路水路幅/水路深/管理道路の有無 0.00m / 0.00m / 管理道路 無 構造形式 場所打ちボックスカルバート 使用材料 鉄防コンクリート 土かぶり(最大/最小) 最大 3.29m / 最小 2.75m 基礎形式 直接基礎 照明(種類/灯数) 有(蛍光灯) 4カ所		維持管理情報 内空 内空の管理者 ○○県 内空面の補修痕 有 内空面の補修方法 ひびわれ注入、繊維シート補強 内空面の補修履歴 有 内空面の補修履歴 有 占用物件の有無 無 占用物件の種類 無 占用物件の異等 無 エコポイント設計基準強度 60mm 鉄防のかぶり 24 N/mm <sup>2</sup>		更新年次: 更新年次: 名称: 現地写真 近景 外付け占有物件 管理業者: 鉄防からの距離 0.5 km 海岸からの距離 4カ所 現地写真 全景		位置図 	
道路規格 調査年 2010年 交通量 区間番号 40,000台 車線数/大型車混入率 58% 荷重制限 不明 緊急輸送道路の指定 有 優先確保ルートの指定 有 事前通行規制・迂回路 有 融雪剤等散布区間 有		設計条件 上部道路活荷重 B活荷重 上部道路との斜角 80度 地震荷重(水平震度) 0.20 基礎地盤N値(土質条件) N値10(砂質土) 基礎地盤改良状況 セメント改良 地下水位 -3.5m その他荷重 無 設計計算書/竣工図の有無 有		縦断勾配 横断勾配 1.415% 曲線半径 2,000m 供用開始 2003年度 適用基準 道路土工-カルバート工指針(平成11年度版) 上部道路活荷重 B活荷重 上部道路との斜角 80度 地震荷重(水平震度) 0.20 基礎地盤N値(土質条件) N値10(砂質土) 基礎地盤改良状況 セメント改良 地下水位 -3.5m その他荷重 無 設計計算書/竣工図の有無 有		災害履歴の有無 無 最新の補修履歴 有 点検履歴 有 ・2010年○月○日 総合的な評価 I (特記事項は備考欄に記載) ・2012年にひびわれ注入を施工 (特記事項は備考欄に記載)		構造諸元 延長/ブロック数 28m / 2ブロック 内空幅/内空高 6.00m / 5.30m 内空が道路車道幅員/車線数/歩道の有無 6.00m / 2車線/歩道 無 内空が水路水路幅/水路深/管理道路の有無 0.00m / 0.00m / 管理道路 無 構造形式 場所打ちボックスカルバート 使用材料 鉄防コンクリート 土かぶり(最大/最小) 最大 3.29m / 最小 2.75m 基礎形式 直接基礎 照明(種類/灯数) 有(蛍光灯) 4カ所		維持管理情報 内空 内空の管理者 ○○県 内空面の補修痕 有 内空面の補修方法 ひびわれ注入、繊維シート補強 内空面の補修履歴 有 内空面の補修履歴 有 占用物件の有無 無 占用物件の種類 無 占用物件の異等 無 エコポイント設計基準強度 60mm 鉄防のかぶり 24 N/mm <sup>2</sup>		更新年次: 更新年次: 名称: 現地写真 近景 外付け占有物件 管理業者: 鉄防からの距離 0.5 km 海岸からの距離 4カ所 現地写真 全景		位置図 	
判定区分 (総合評価) III		所見 (適切に記載する)		作成者 ○○○○会社		○○○○									

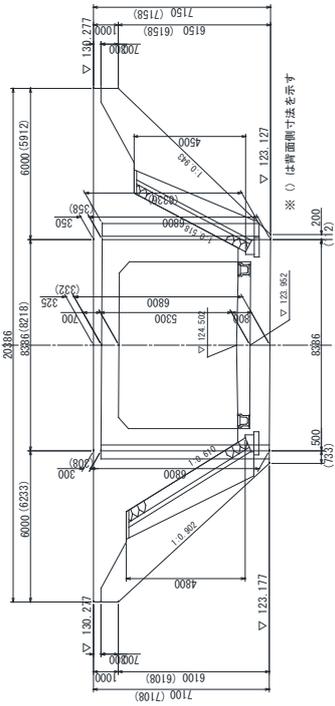
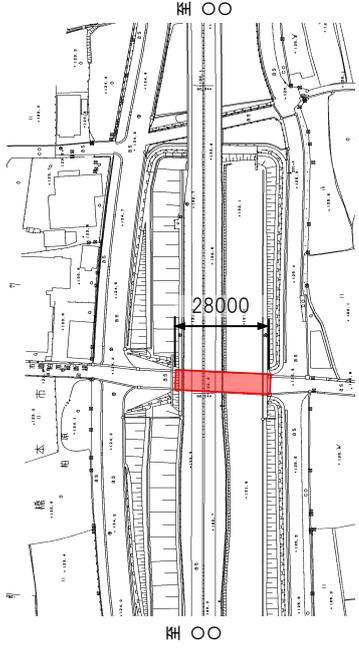
大型カルバート

定期点検記録様式(その2) 一般図		起点削	緯度 35.159388 経度 139.819139	終点削	緯度 35.160123 経度 139.819301	施設ID
フリガナ 施設名	路線名	国道〇〇号(現道)	管轄	〇〇地方整備局	〇〇事務所	施設コード 100
〇〇カルバート	〇〇カルバート					

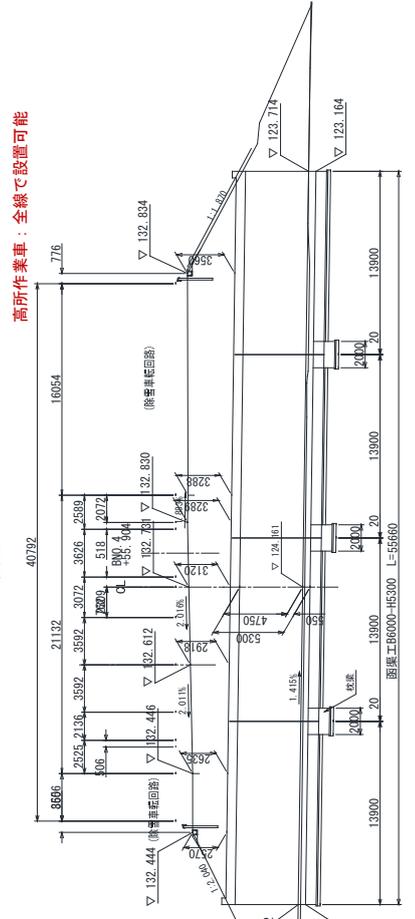
道路台帳番号	図面番号	5/20	区間順序番号	22300010270
設計会社	〇〇コンサルタント(株)			
施工者(上部構造)	〇〇建設(株)/〇〇コンクリート工業			
施工者(下部構造)	〇〇建設(株)			

図面作成年月日：2010年 〇〇構造物補修工事

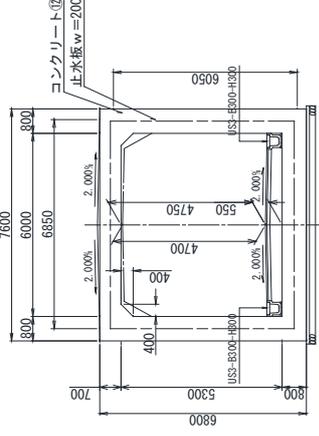
平面図



側面図



断面図



〇一般図には近接目視による診断が行えない箇所を明記すること。

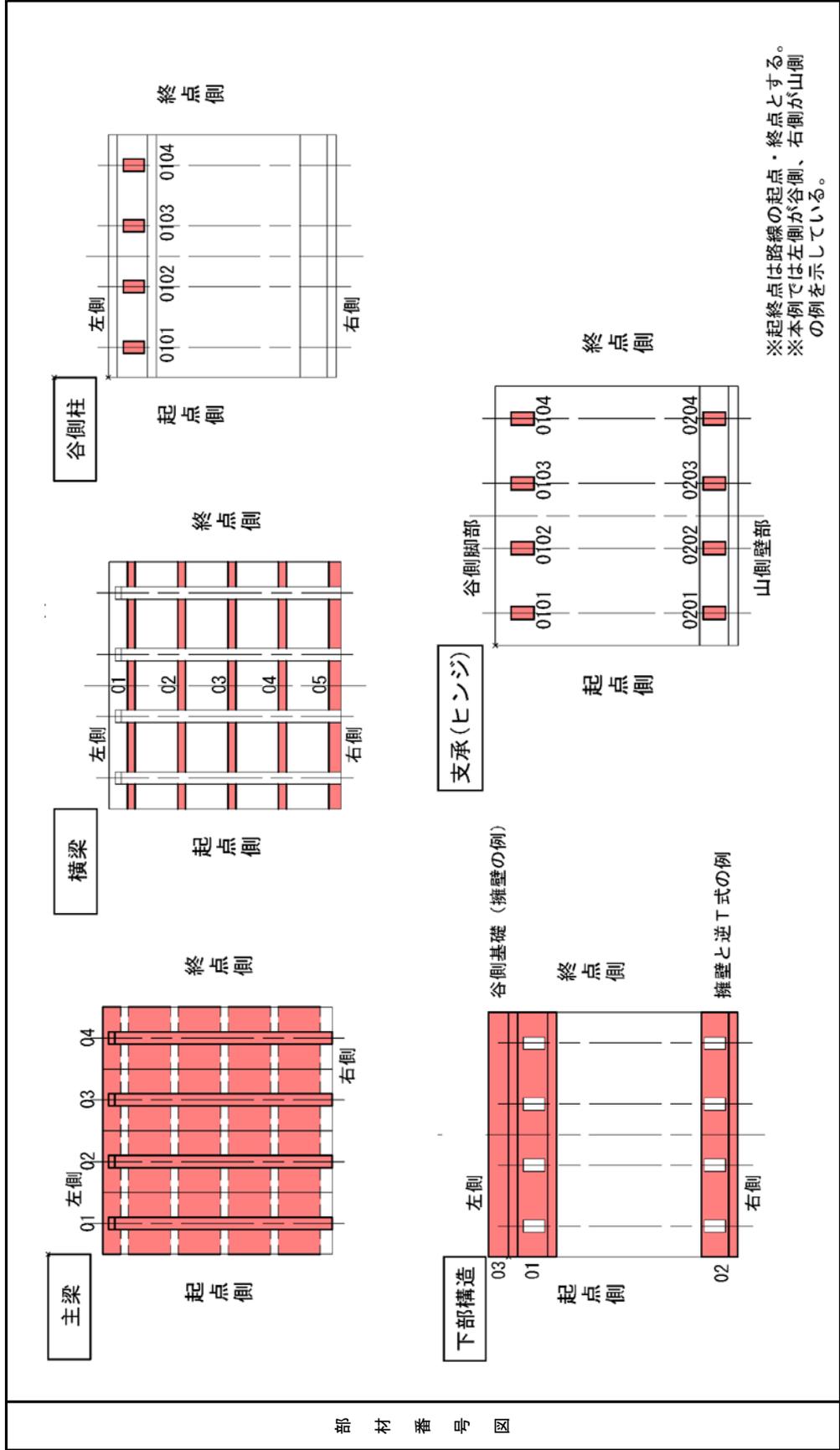
シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式 (その3) 現地状況写真		ブロック番号		1		起点側		緯度		35.159388		経度		35.160123		施設ID							
フリガナ		国道〇〇〇号(現道)		管轄		〇〇		地方整備局		施設コード		10		緯度		139.819139		経度		139.819301			
写真番号	1	撮影年月日	2019/11/30	写真番号	2	撮影年月日	2019/11/30	写真番号	3	撮影年月日	2019/11/30	写真番号	4	撮影年月日	2019/11/30	写真番号	5	撮影年月日	2019/11/30	写真番号	6	撮影年月日	2019/11/30
ブロック番号	1	ブロック番号	2	ブロック番号	3	ブロック番号	4	ブロック番号	5	ブロック番号	6	ブロック番号	7	ブロック番号	8	ブロック番号	9	ブロック番号	10	ブロック番号	11	ブロック番号	12
施設正面 手前:至 〇〇 起点側、奥 :至 〇〇 終点側		施設側面 ・海岸に近接している。		点検状況(高所作業車) ・山側受台上部および山側支承部の点検に高所作業車を要した。		規制状況 ・高所作業車の設置に規制を要した。		点検状況(特殊高所技術) ・谷側擁壁基礎の点検にロープアクセスを要した。		銘板 ・完成年度 〇〇 ・延長 〇〇 ・幅員 Om、高さ Om													

現 地 状 況 写 真

シールド、大型カルバート共通

定期点検記録様式（その4） 部材番号図		ブロック番号		1		起点側		35.159388 緯度 139.819139 経度		35.160123 緯度 139.819301 経度		施設ID	
フリガナ 施設名		路線名		国道〇〇〇号(現道)		管轄		〇〇		地方整備局		施設コード	
〇〇ロックシェッド 〇〇ロックシェッド												10	



シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式（その5）状態把握の方法		ブロック番号	1	起点側		35.159388	緯度	35.160123	緯度	139.819301	経度	139.819301	経度	施設ID	
フリガナ	〇〇ロックシェット	路線名	国道〇〇〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10							
施設名	〇〇ロックシェット														

近接目視による状態の把握が不可能な箇所

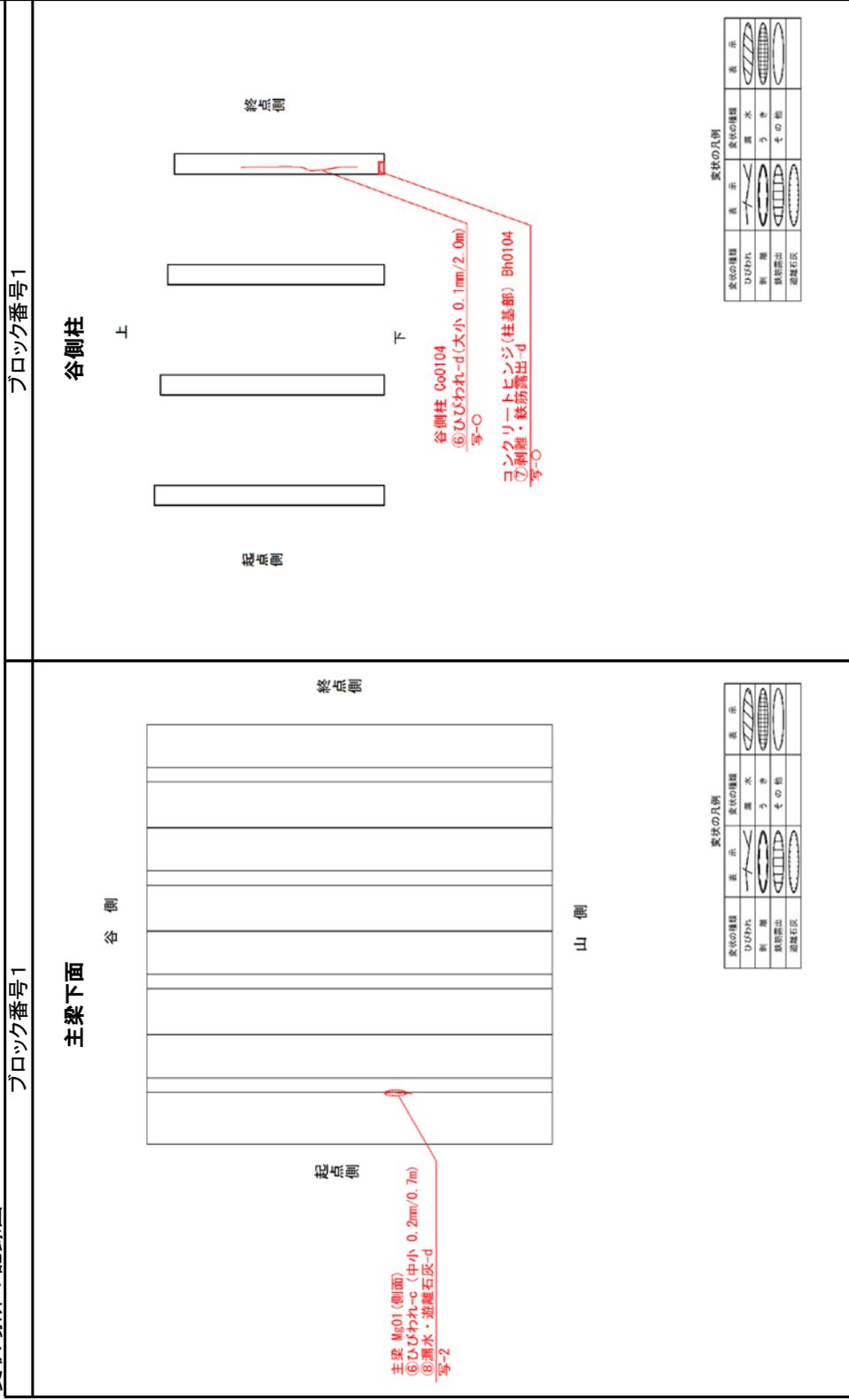
部材名	部材番号	不可能な理由	対応策
谷側擁壁基礎	03	(適切に記載する)	(適切に記載する)

〇近接目視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。

シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式 (その6) 旗揚げ図		ブロック番号		1	
緯度	35.159388	緯度	35.160123	施設ID	
経度	139.819139	経度	139.819301		
起点側		終点側			
管轄	〇〇	地方整備局		施設コード	10
路線名	国道〇〇〇号(現道)				
フリガナ	〇〇ロックシェット				
施設名	〇〇ロックシェット				

変状場所の記録図



○ 診断に直接考慮した、健全性の根拠となる変状を記載する。

シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式 (その7) 変状写真及び判定結果	ブロック番号	1	起點側	緯度 経度	35.159388 139.819139	終點側	緯度 経度	35.160123 139.819301	施設ID
フリガナ 施設名	路線名	国道〇〇号(環道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10		

健全性判定

写真番号	3	ブロック番号	1	部材名	谷側柱	部材番号	0104
変状の種類	剥離・鉄筋露出、ひびわれ						
(例)							
変状写真							
変状写真							
所見	(適切に記載する)						
所見							
今回判定	部材毎の対策区分判定		部材毎の健全性の診断		部材毎の健全性の診断		
前回判定	部材毎の対策区分判定		部材毎の健全性の診断		部材毎の健全性の診断		

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。  
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。  
 ○診断根拠とした、主要な変状を記載する。

シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式 (その8) 診断総括表		ブロック番号	1	起点側	緯度 35.159388 経度 139.819139	終点側	緯度 35.160123 経度 139.819301	施設ID
フリガナ 施設名	〇〇ロックシエツド 〇〇ロックシエツド	路線名	国道〇〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10
部材毎の健全性の診断								
部材名	部材番号	変状の種類	写真番号	健全性(部材単位)				
上部構造	01	沈下・移動・傾斜	1	II				
下部構造	01	変形・欠損	4	I				
支承部	0201, 0203, 0204		〇	I				
その他	01	路面の凹凸	6	II				

○診断根拠とした、変状を記載する。

## (1)解説

本様式は、道路管理者がたとえば、定期点検時点毎のシェッド、大型カルバート等の施設の状態を経時的に比較すること、措置のための調査等を行うにあたって有用な情報となるように、部材単位でも健全性の診断の記録を遺すことを想定しています。本様式を実際に使用するとき想定される注意点の例を以下に示します。

- (例) ・ 現地の条件等によっては、外観の確認が困難な部材もあり得ます。そこで C-5 様式では、近接目視や必要と考えたにもかかわらず打音及び触診が実施できなかった場合にその理由を、備考欄に記録として残すことも想定しています。たとえば実際の目視対象位置までの距離を大まかでよいので記録に残すなど、後日調書を見る第三者が健全性の診断結果を理解する前提条件として知っておくべき事項を書き込んでおくとい良いでしょう。
- ・ 総合評価の所見欄は、A-1 様式や B-1 様式の施設毎の健全性の診断（所見等）の欄と同様に、施設としての健全度の評価判定に至った経緯を記載する欄として想定しています。たとえば、変状部位種類の概況や性状、現状の本体安全性に関する見立てについての所見、進行性についての所見、必要な措置の観点と切迫性を記載することを想定しています。
  - ・ C-1様式、C-2様式はシェッド・シェルター（C-○(1)）と、大型カルバート（C-○(2)）で記載様式を変えています。C-3様式からC-8様式は共通の様式としています。
  - ・ C-2 様式は、当該施設へのアクセスルートや梯子の設置位置等を記載する欄としても想定しています。たとえば、災害時等の速やかな緊急点検や応急復旧の計画策定が容易になることにも寄与すると考えられます。
  - ・ C-5 様式は、現地の条件等によっては、近接目視や必要と考えた打音及び触診が実施できなかった時に、実施できなかった理由及び代替方法を記録として残す欄として想定しています。
  - ・ C-6 様式は、様々な変状が色々な部材に確認された中で、部材単位の診断結果がⅡ～Ⅳの変状箇所について記録することを想定しています。たとえば、写真や所見と照合に必要な情報であればよく、手書きでも構わないものです。
  - ・ C-7 様式は、部材単位でも診断結果（Ⅱ～Ⅳ）の根拠となる変状の範囲や状況の写真を径間毎に整理する欄を想定しています。なお、所見には、たとえば、推定される変状の原因，進行性についての評価，当該変状に対する判定の根拠とその考え方などを記述しておくなどの使い道を想定しています。

シエツド、大型カルバート共通

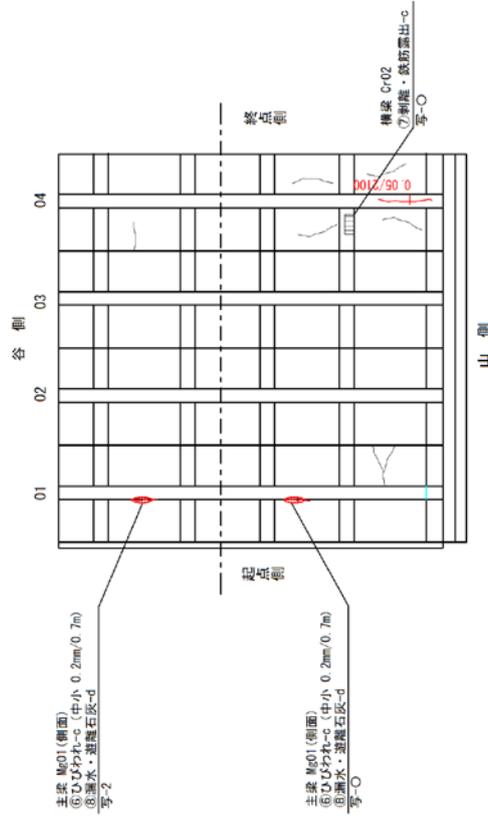
データ記録様式(その9) 変状図

フリガナ 施設名	〇〇ロックシェツド 〇〇ロックシェツド	路線名	国道〇〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10
ブロック番号	1	起点側 緯度 経度	35.159388 139.819139	終点側 緯度 経度	35.160123 139.819301	施設ID		

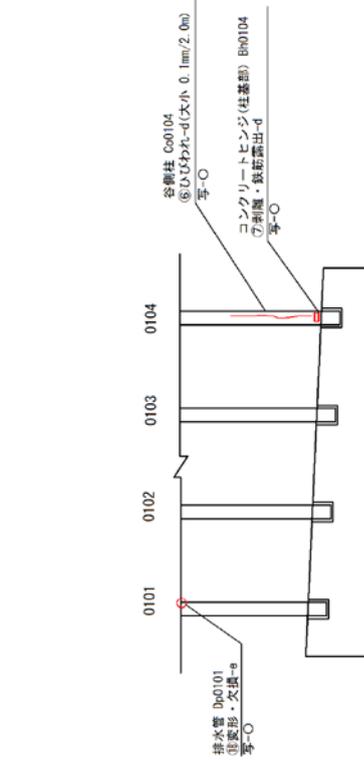
黒字は、前回点検で確認された変状  
赤字は、今回点検で確認した変状

1ブロック (主梁下面)

1ブロック (谷側柱)



変状図



変状の凡例

変状の種類	表示	変状の種類	表示
ひびわれ		漏水	
剥離		うき	
鉄筋露出		その他	
遊離石灰			

シート、大型カルバート共通

【様式】 D-2

データ記録様式(その10) 変状写真		ブロック番号		1	
緯度		35.159388		緯度	
経度		139.819139		経度	
起点側		35.160123		終点側	
経度		139.819301		経度	
施設ID					
プリガナ施設名		国道〇〇〇号(現道)		管轄	
〇〇ロケーション		〇〇		〇〇	
〇〇ブロックシート		200万画素		5000ルクス	
カメラの性能		機種		〇〇カメラ	
路線名		国道〇〇〇号(現道)		管轄	
画素数		200万画素		明るさ	
判定レベル(mm)		10			
変状レベル(mm)		0.2			

写真番号	1	ブロック番号	1	写真番号	2	ブロック番号	1	写真番号	3	ブロック番号	1
部材名	主梁	部材番号	01	部材名	主梁	部材番号	04	部材名	コンクリートヒンジ(柱基部)	部材番号	0104
変状の種類	沈下・移動・傾斜	変状程度	e	変状の種類	漏水・遊離石灰	変状程度	d	変状の種類	剥離・鉄筋露出	変状程度	d
前回変状程度			a	前回変状程度			a	前回変状程度			c

写真番号	4	ブロック番号	1	写真番号	5	ブロック番号	1	写真番号	6	ブロック番号	1
部材名	谷側受台	部材番号	01	部材名	梁端部コンクリート支保(梁端部)	部材番号	0202	部材名	舗装	部材番号	01
変状の種類	変形・欠損	変状程度	c	変状の種類	支保部の機能障害	変状程度	e	変状の種類	路面の凹凸	変状程度	c
前回変状程度			a	前回変状程度			a	前回変状程度			c

変状写真											
											
											

シエツド、大型カルバート共通

フリガナ 施設名		データ記録様式(その11) 変状程度の評価記入表 (主要部材)		ブロック番号	1	起点側	緯度 経度	35.159388 139.819139	終点側	緯度 経度	35.160123 139.819301	施設ID	
フリガナ 施設名		国道〇〇〇〇号(現道)		路線名	〇〇	管轄	地方整備局		施設コード		10		
工種	材料	部材種別		記号	部材番号	変状程度の評価	変状程度		変状 パターン	変状の種類	分類		
		名称	定量的に取得した値				単位						
SP	C	主梁	Mg	01	e	25	mm	沈下・移動・傾斜					
SP	C	横梁	Cr	04	c	0.2×0.2	mm	剥離・鉄筋露出					
SP	C	谷側柱	Co	0104	d	0.1	mm	ひびわれ					
SB	C	谷側受台	Bs	01	b	0.1	mm	ひびわれ					
SB	C	山側受台	Bs	02	d	0.4	mm	ひびわれ					
SB	C	谷側擁壁基礎	Bs	03	e			変形・欠損					
B	C	コンクリートヒンジ(柱基部)	Bh	0104	d			剥離・鉄筋露出					
B	X	梁端部ゴム支承(梁端部)	Br	0202	e			(4) 支承部の機能障害		(1)			



シエツド、大型カルバート共通

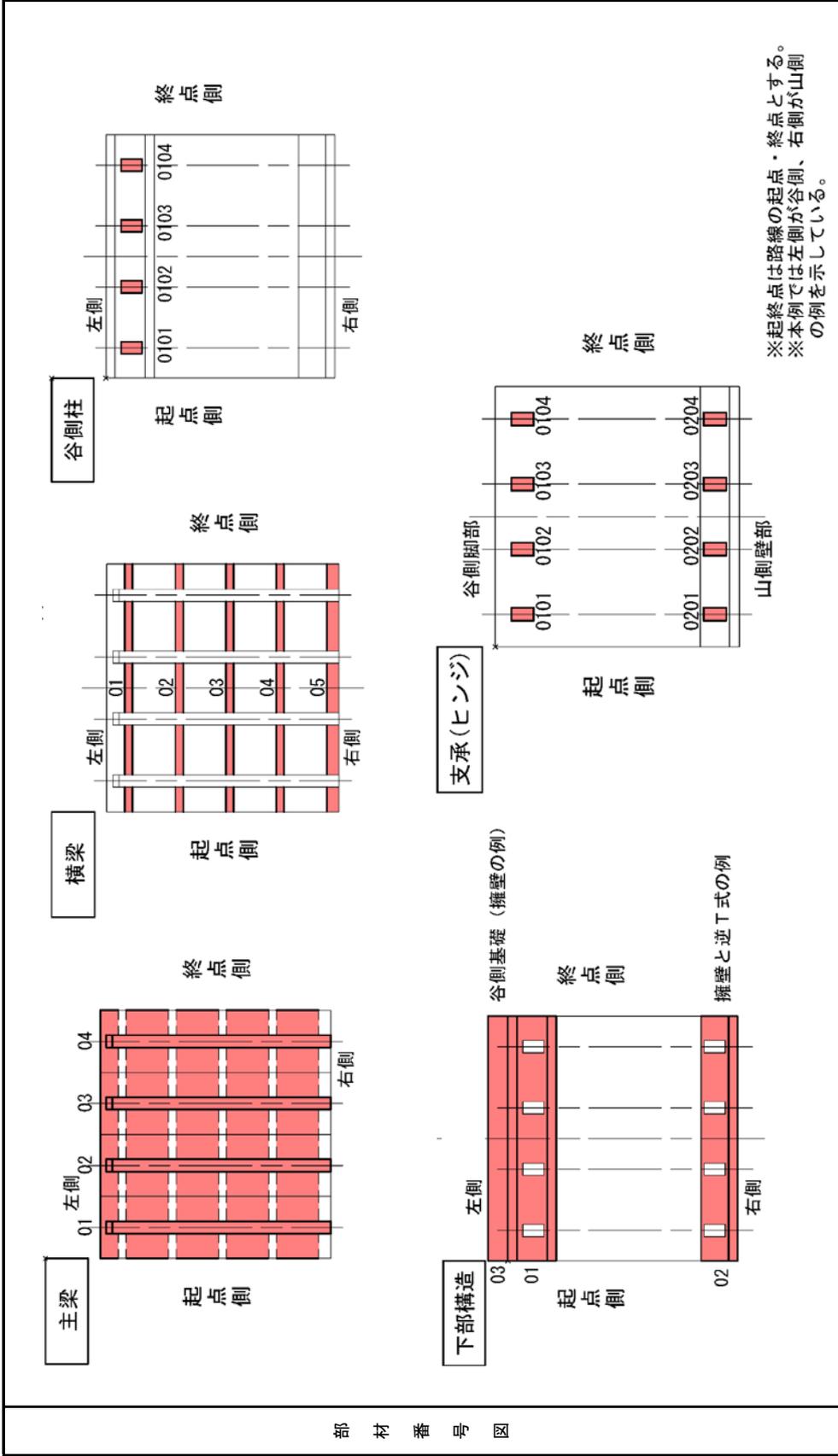
データ記録様式(その13) 変状程度の評価結果総括		ブロック番号	1	起点側	緯度	35.159388	経度	139.819139	終点側	緯度	35.160123	経度	139.819301	施設ID
フリガナ	施設名	路線名	国道〇〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10						
工種	材料	部材種別		今回定期点検	点検日	2019/11/30	前回定期点検	点検日	2014/9/17					
		名称	記号	部材番号	変状の種類(程度)									
SP	C	主梁	Mg	01	ひびわれ(c),漏水・遊離石灰(d),沈下・移動・傾斜(e)									
SP	C	横梁	Cr	02	剥離・鉄筋露出(c)				剥離・鉄筋露出(c)					
SP	C	谷側柱	Co	0104	ひびわれ(d)				ひびわれ(b)					
SB	C	山側受台	Bs	01	ひびわれ(d)				ひびわれ(b)					
SB	C	谷側受台	Bs	02	ひびわれ(b),変形・欠損(c)									
SB	C	谷側擁壁基礎	Vw	03	変形・欠損(e)									
B	X	梁端部コム支承(梁端部)	Br	0202	支承部の機能障害(e)									
B	C	コンクリートヒンジ(柱基部)	Bh	0104	剥離・鉄筋露出(d)									
R	X	舗装	Pm	01	路面の凹凸(c)									
E	V	排水管	Dp	0101	変形・欠損(e)				変形・欠損(e)					
SL	X	緩衝材	Bc	01	その他(e)				変形・欠損(e)					

シエツド、大型カルバート共通

定期点検記録様式 (その4) 部材番号図	ブロック番号	1	起点側	緯度 経度	35.159388 139.819139	終点側	緯度 経度	35.160123 139.819301	施設ID
----------------------	--------	---	-----	----------	-------------------------	-----	----------	-------------------------	------

【様式】 C-4

フリガナ 施設名	路線名	国道〇〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード	10
-------------	-----	------------	----	----	-------	-------	----



部 材 番 号 図

シエツド、大型カルバート共通

【様式】 C-5

定期点検記録様式 (その5) 状態把握の方法		ブロック番号	1	起点側		緯度	35.159388	経度	139.819139	終点側	緯度	35.160123	経度	139.819301	施設ID
フリガナ	施設名	路線名	国道〇〇号(現道)	管轄	〇〇	地方整備局	施設コード		10						
〇〇ロックシェット	〇〇ロックシェット														

近接目視による状態の把握が不可能な箇所

部材名	部材番号	不可能な理由	対応策
谷側擁壁基礎	03	(適切に記載する)	(適切に記載する)

○近接目視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。

## (1)解説

本様式は様式Cに加え、シェッド、大型カルバート等の施設によっては、これまでのデータの蓄積を継続し、施設の経年変化の傾向を分析したり、各種計画の策定に役立てるための客観的な情報を記録するニーズを想定しています。

本様式を実際に使用するとき想定される注意点の例を以下に示します。

### (例)

- ・ D-1様式は、写真ではわかりにくい質的な変状状況について変状の種類・程度や箇所など複数の情報をブロック毎に記録する欄として想定しています。
- ・ D-2様式は、近接目視しなかった、できなかった箇所を記録しておくために使うことを想定しています。
- ・ D-3様式は、主要部材について部材毎に、変状の種類・程度などをブロック毎に整理する欄として想定しています。ここでの変状程度の評価は、その原因や将来予測、施設全体の性能等へ与える影響度合い等は含まず、健全性の判定とは主旨や目的が異なるものです。また、これがないと健全性の判定ができないというものではありません。
- ・ D-5様式は、変状の種類・程度を、ブロック毎に、前回定期点検結果と対比するよう整理する欄として想定しています。
- ・ D-2様式には、将来、機器の活用など、多様な外観記録方法が使われることが想定されます。また、常に同じ機器、観測条件でデータがとられるわけではないことも想定されます。そこで、後日の計測結果や他の方法での計測結果と比較検討できるように、記録に用いた機器や使用条件、分解能や結果の解釈に必要な事項を記録しておく欄を作っています。
- ・ なお、様式Dは部材毎に変状の種類や程度を整理するため、様式Dを定期点検において使用する場合は、C-4様式（部材番号図）及びC-5様式（状態把握の方法）の部材番号に変更する必要があります。ちなみにC-4'様式、C-5'様式としてそれぞれ参考添付しておきます。